



一般社団法人 ピースボート災害支援センター
事務局長 上島 安裕 さん

災害支援のこれまで

ピースボート災害支援センター(PBV)は「人こそが人を支援できる」というミッションを掲げて、東日本大震災や国内外での災害支援、防災・減災への取り組みを行っています。国際交流をテーマに船旅を運営するNGOピースボートが災害時に支援活動を行っていたことが出発点となり、災害支援に特化した団体として独立しました。NGOピースボートは広島YMCAと共に核廃絶の取り組みを行うなど、以前からYMCAとのつながりがあります。

ボランティア元年と言われる1995年の阪神・淡路大震災の発災時はボランティアの窓口がないために混乱が生じたといわれています。その後の東日本大震災や熊本地震を経て、様々なNPO・NGOや企業も災害支援に関わるようになり、民間の協力が不可欠だという認識が広がってきました。発災後、義援金はすぐには届きません。資金的な援助より先に課題に取り組むことに災害ボランティアの価値があると思っています。生活環境改善、日常生活をとり戻す、ペット支援など災害ボランティアの支援は多様です。子どもの支援などはYMCAが得意なことですね。活動のためには行政との連携が大切です。例えば、どの避難所で食事が足りていないかという情報は行政しか持ちえませんが、生活困窮に陥ってしまう前にボランティア団体に関わり、課題を行政につないでいくという役割もあります。

パートナーシップで目指す防災・減災

災害支援とSDGs

2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)は「誰一人取り残さない」をキーワードに世界を変えていこうというものです。この考えは災害時にも活用できます。「1.貧困をなくそう」、「2.飢餓をゼロに」、「3.すべての人に健康と福祉を」、「4.質の高い教育をみんなに」、「5.ジェンダー平等を実現しよう」、「6.安全な水とトイレを世界中に」といった目標にしっかりと対応していくことが大切です。

そして復旧期、復興期を経た時に大切なのは、「あの時できなかったこと」を次の災害までに改善すること。例えば水害にあった地域に住み続けるとしたら、安全に暮らすために土地のかさ上げをしたり、避難方法を構築しておく。これはSDGsの項目11の「住み続けられるまちづくりを」につながります。

世界的にみると豪雨の頻度は40年前のおよそ4倍になっています。原因は地球温暖化です。平時にできる水害への対策は項目13の「気候変動に具体的な対策を」につながるでしょう。自然エネルギーに切り替える、省エネに取り組むことなどが考えられます。SDGsの一つひとつの目標は大きくて、一個人、一つの組織で解決できるようなものではありません。項目17で謳われているようにパートナーシップで目標達成に取り組むことが重要です。



信頼し合える仲間づくりを

昨年の7月豪雨では、PBVとYMCAが協働して球磨村の避難所を運営しました。YMCAに避難所運営の実績があったことに加えて、行政や私たちPBV、その他の支援団体とのパートナーシップにより実現できたことです。

災害が激甚化する中、これまでと同じ支援体制では太刀打ちできません。災害支援ができる組織が増えていくことが必要です。私たちはYMCAと協力しながら、今まで支援活動に関わらなかった団体、個人とも平時から協力し合って次の災害に備えていきたいと考えています。私も以前はNGOピースボートのスタッフとして船旅の運営に携わっていて、災害支援の専門ではありませんでした。災害支援の経験がなくても、例えば「船の上で毎日1000人ぐらいの料理を作っている人は炊き出しができるよね」、「船上新聞を作っていた人は、地域新聞を作って情報発信できるね」と、これまでの経験を応用することで支援が可能になります。

災害時は課題だらけです。皆で考えて行動する、頼れる仲間がいるということは重要です。普段からつながりがあれば、組織を超えてお互いに補完し合えることが分かってきます。PBVとYMCAもこれまで以上に平時からの協働を進めていきたいですね。



熊本豪雨では、YMCAからピースボート災害支援センターに協力を要請し、共に避難所を運営した

2月に開催した熊本YMCA全体職員研修での講演の一部を抜粋

Pickup

みんな笑顔で
赤水保育園
卒園式



それぞれの夢に向かって
YMCA学院日本語科
卒業式

みんながんばったね!
水前寺幼稚園
Yっこ教室発表会



熊本YMCA総主事 ～岡成也さんから神保勝己さんへ～



2014年度より熊本YMCAの総主事を務めた岡成也さんが2021年3月末をもって退任し、これまで副総主事を務めてきた神保勝己さんが熊本YMCAの総主事に就任しました。

3月13日(土)には、YMCA中央センターで総主事就退任式を開催。第1部礼拝では熊本白川教会牧師の富山信さんが「主ある良き働き継承」と題して奨励。岡さんから神保さんへ聖書の引継ぎが行われました。第2部就退任式では、神保勝己さんが「周りの皆さんが笑顔になるYMCAにしていきたい。皆さんのご協力をお願いいたします」と挨拶。日本YMCA同盟総主事の田口努さんが「社会全体が困難の中にありますが、全国の仲間が共に痛みと喜びを感じながら、歩んでいきたい」と述べたほか、日本国内はもとより、韓国やタイからも動画によるお祝いのメッセージが寄せられました。



じん ぼ かつ み
神保 勝己

1965年3月28日生まれ

所属教会：日本キリスト教団熊本白川教会

1990年 熊本大学教育学部教員養成課程卒業

1990年 熊本YMCA奉職 少年学習教育部
(専任教員、主任、コーディネーター)

2002年 熊本YMCA本部事務局 ICR(国際・地域・会員サービス部)(主任)

2006年 日本YMCA同盟認証主事

2007年 中央YMCA館長・ICR部長

2010年 熊本YMCA学院(事務局長・副学院長)

2013年 熊本YMCA本部事務局
(総務部長・事務局長・副学院長)

2018年 熊本YMCA副総主事

2019年 富山YMCA総主事

2020年 熊本YMCA副総主事

●新総主事 神保勝己さんに12の質問●

1.趣味は何ですか？

球場で高校野球等の観戦

2.好きな食べものは？

スリランカ料理。特にカレー。2005年3月に津波被害の支援活動でスリランカを訪問したのがきっかけです。紅茶も美味しかったです

3.毎日必ずやることはありますか？

お祈りとストレッチ

4.子どもの頃の夢は何でしたか？

親が言うには、小さいころはお医者さんになると言っていたそうです

5.好きな言葉や座右の銘はありますか？

「私の歩みは遅いが歩んだ道を引き返すことはない」

6.一番幸せを感じる時は？

湯船に浸かって「ア～」という瞬間！

7.こう見えて〇〇なんです

方向音痴。ですから海外出張の時は空港内等のシミュレーションに時間をかけます

8.コロナ禍が落ち着いたらやりたいことは？

海外に行きたい。仕事も含めて。特に行きたいのはタイです。山岳少数民族の村



9.仕事をする上で心がけていることはありますか？

目の前の人の気持ちに寄り添う

10.今までの仕事で一番のピンチだったことは？

やっぱり熊本地震の時のYMCA運営と災害支援

11.働いていてうれしかったことは？

少年学習部のころ、「あの時のアドバイスで勉強をがんばれました」とか「授業を録画して復習したい」等と言われたこと

12.会員の皆さんにひとこと

子どもや留学生の支援、貧困や環境問題などの社会課題に対して、会員の皆さんと共に働きをしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします

Compassion

コンパッション Vol.1

総主事 神保 勝己

痛みを共感する

2021年4月1日より、岡成也さんの後任として第14代熊本YMCA総主事を務め、本コラムを通してYMCAの働きや日々の思いをお伝えして参ります。コラムタイトルは「コンパッション」としました。イエスの愛と憐れみの姿が描き出されている「善きサマリア人のたとえ」に出てくる「憐れに思って(moved with compassion)」から引用しています。ひとりの旅人が追いはぎ(強盗)に襲われ瀕死の重傷を負っています。そこを通りかかった祭司やレビ人は、助けなければと思ったかもしれませんが、「忙しい」、「関わったら大変なことになるのでは」等の理由があったのでしょう。結果として見て見ぬふりをし、通り過ぎてしまいます。ところが、サマリア人

は倒れていた旅人を助けたというものです。イエスは「この三人のうち、誰が追いはぎに襲われた人の隣人になったか」と尋ねます。もちろん、隣人となったのはサマリア人です。「憐れに思って」サマリア人の心が動いて、倒れている人を救ったのです。自分のこととして、倒れている人の痛みを共感したのだと思います。そして、行動しているのです。その行動こそが隣人に寄り添うということです。イエスはわたしたちに「行ってあなたも同じようにしなさい」と語りかけます。人々を愛し、愛を実践しなさい、と語りかけています。今倒れている人に、今傷ついている人に、手をさしのべて助ける。そのようなことをあなたが行いなさいと命じていらっしゃるのです。

昨年の7月豪雨では、人吉・球磨を中心に甚大な被害が発生しました。被災地域の映像を見ながら心の引き裂かれる思いで、私たちに何ができるのか、何をなすべきか、と祈りました。発災後すぐに県社協やくまもと災害ボランティ

ア団体ネットワーク(KVOAD)と意見を交わし、先遣隊としても現地に赴きました。結果、旧多良木高校での避難所運営や物資の提供、ボランティアの派遣等の支援活動をさせていただくこととなり、微力ながら寄り添うことができたと思っています。

私たちYMCAが行う働きは、様々な世代や国籍、ジェンダー、立場を超えて、困難にある人々を見過ごすことなく寄り添っていくものです。NPOや行政、企業・団体と協働しながら、社会課題に向けた働きを行っていきます。そのすべては「共感」することなしに成立しません。特にコロナ禍で格差が助長され、日々の暮らしにおいて、痛みを覚えている方々、様々な壁に突き当たって、もがいていらっしゃる方々が国内外にいます。そこにYMCAがどのような働きができるのか？「愛」をどうやって実践できるのか？私たちと共に歩んでくださる神様の喜ぶ働きをしていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

R | E | P | O | R | T

[2月20日⇒ 3月14日]

移 転

56年間の歴史に思いを込めて 中央センター感謝会

2021年春、中央センターは新町の地から移転し、新たな歩みを始めます。会員、ボランティア、地域の皆さんへ感謝の気持ちを伝え、これまでの歴史を継承して新たな地へと向かうため、2月20日(土)に感謝会を開催しました。

元中央運営委員長で熊本聖書教会牧師の長澤忠雄さんより、「回顧(感謝)と前進せよ」と題して奨励がなされました。その後、スライドショーで56年の軌跡を振り返りました。また、YMCA社交ダンスクラブ、ボランティアグループ青い芽、野外活動クラブ(インディアンズクラブ)の活動を報告。長年にわた

り、福祉活動、青少年の育成などに取り組んできた歴史を確認しました。また熊本ワイズメンズクラブ会長や中央運営委員会からの期待と励ましの言葉のほか、一新校区7町内自治会長の大橋道雄さんからは、「これまで自治会の活動に様々な提案をいただいたことに感謝します」とメッセージが送られました。

青少年の教育の場所として活動を展開した中央センターで培われてきた財産は、段山本館へ移転しても、しっかりと継承していきます。

職員 山田真二



国 際

ユースリーダーが参加 日中韓YMCA平和フォーラム

3月6日(土)、オンラインで開催された第8回日中韓YMCA平和フォーラムに熊本YMCAのユースリーダーを代表して参加しました。参加者が90名を超えた本フォーラムは2部制で開催されました。1部は参加者全員に向けた各国代表者によるプレゼンテーション、2部ではシニア・ユースそれぞれ与えられた枠で議論が行われました。

各国YMCAの代表者が母国語で同時通訳を通じて活動内容の報告や平和について発表した1部では、各国のコロナ禍における対策や支援内容の発表を受け、「はなれていてもつながっている」重要性

を再確認することができました。

2部のユースグループでは6名ずつに分かれてディスカッションを行い、参加者全員に意見を発信する場が設けられました。時間が短く心残りもありましたが、平和をテーマに「つながる」ことが大きな一歩となり、「よくなっていく」準備ができたと感じています。差別に反対するデモが暴徒化するのが平和なのか、戦争しないことだけが平和なのか、これからも考えていきたいと感じました。

YMCAユースリーダー

尾見駿斗(スノーボーリーダー)



卒 業

留学生が決意を表明 YMCA学院卒業式

3月11日(木)、くまもと森都心プラザホールで、YMCA学院の第53回卒業式が行われました。感染症対策として、出席者を卒業生、保護者、教職員に限り、代わりに動画投稿サイトYouTubeで式の様子をライブ配信しました。式では担任がクラス一人ひとりの名前を読み上げた後、各学科の代表者7名に学院長より卒業証書が授与されました。

在校生を代表し児童福祉教育科2年の佐藤菜々子さんが、「卒業の寂しさと喜びを感じておられることと思います。これから待ち受ける社会では、様々な困難にぶつかることがあるかもしれません。その

時はどうか、ご家族、これまで一緒に助け合って同じ目標に向かって頑張ってきた仲間、熱心に指導してくださった先生方のことを思い出し、困難を乗り越えてください」と送辞を述べました。

一方、卒業生を代表してネパール出身でビジネス総合学科の留学生グルン・アーシスさんが、「念願だったホテルへ就職します。これからも日々、精進することを忘れません。夢を持ち、多様な価値観を大切にしてお互いを認め合いながら、社会貢献をすることを誓います」と力強く決意を述べました。

職員 熊本四季子



交 流

復興に向けて前進 御船町復興住民交流会

3月14日(日)、御船町スポーツセンターで「御船町復興住民交流会」を行いました。この会は主に御船町仮設住宅を退去し、災害公営住宅に移られた約140世帯の住民の皆さんを対象としたものです。

御船町はこの3月ですべての仮設団地が撤去となり、居住者全員が自宅再建や災害公営住宅に移るなどして新たな生活をスタートすることができました。それに伴い、地域支え合いセンターの活動も終了となります。そのような大きな節目を支援者と住民がともに祝い、今後の復興に向けて進んで行くことを目的に開催し、当日は200名近くが集まりました。地元のフラワーショップや軽食等の出店があり、

中には避難所の時からずっと支援を続けたYMCAのボランティア会員のカフェもありました。

会の最後には、仮設団地の元住民3名が復興への道のりと現在の心境について話し、支援者への感謝の気持ちが伝えられると、会場は温かな雰囲気につつまれました。元仮設団地住民の江藤東子さんは、「失ったものは確かにあったけれど、その代わりに得たものもたくさんあります。復興で一番大切なことは“こころの復興”だと思います。支援者の皆さんがいつも声をかけてくださったことが本当にこころの支えになりました」と語っていました。

職員 藤川登士郎



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

4月17日 Saturday

自然災害にこれまで以上の備えを 熊本災害支援フォーラム2021

防災
×
学び

2021年4月で熊本地震から5年を迎えます。また、昨年の7月豪雨災害発災後、いまだに多くの方が困難な中にあり、復旧復興活動が長期にわたることが推測されます。被災者や災害支援にあたる様々な立場の皆さんの経験の共有を通して、新たなネットワークづくりと人材育成を行い、近年頻発する自然災害にこれまで以上に備えた防災、減災を進めていくことを目指して、フォーラムを開催します。



回4月17日(土)13:00~16:00

場熊本YMCA本館(熊本市中央区段山本町4-1)
サテライト会場/KVOAD事務所

※オンライン参加が可能です。お申込みの際に
お知らせいただいたメールアドレスにZoom
ログインのIDを送信いたします。

お申込み



因熊本地震・7月豪雨災害リレートーク [登壇予定] 熊本県副知事 木村敬さん、復興プロジェクト大津「カセスル熊本」代表 吉田知司さん、益城町東無田復興委員会 田崎真一さん、球磨村こうのせ再生委員会 岩崎哲秀さん、御船町社会福祉協議会 中島直子さん、一般社団法人minori 高木聡史さん、生活協同組合くまもと 迫和久さん／ファシリテーター KVOAD 樋口務さん、熊本YMCA 丸目陽子 主催 熊本災害支援フォーラム実行委員会 実行委員長 神保勝己

4月24日~12月24日

新校舎がいよいよオープン YMCA学院オープンキャンパス

専門学校
×
体験

5月10日に新校舎に移転するYMCA学院。医療秘書科、健康スポーツ科、こども保育科、建築科、ホテル観光科の各学科の魅力にふれることができるオープンキャンパスを開催します。

回4月24日(土)、5月15日(土)、6月6日(日)・19日(土)、7月3日(土)・18日(日)・30日(金)、8月8日(日)※・18日(水)・24日(火)・28日(土)、9月4日(土)・18日(土)、10月2日(土)、12月24日(金)
※8月8日(日)は特別イベントを開催します。

場YMCA学院新校舎(熊本市中央区段山本町4-1)

※4月は現校舎(新町1-3-8)で実施します

因体験授業・在学生との交流など

※日程により異なります

費無料 回4月、5月のオープン
キャンパスの申込を受付中です。

Webサイトからお申込みください。



昨年のオープンキャンパスの様子

熊本YMCAウエルネス Instagramを開設

熊本YMCAウエルネスInstagramを開設しました。

こどもスポーツスクール、成人ウエルネス、キャンプ関係の情報をアップします。
Instagram限定の情報も公開。お楽しみに。



回日時 場会場 因内容 費参加費 定員 因参加条件 持持ち物 対対象 主催 締切 回申込 問問合せ その他

東日本大震災から10年、熊本地震から5年を迎えました。多くのメディアで「あれから10年」という特集が組まれていました。ある人にとっては思い出したくない経験だったでしょう。夫を失った方が「今、ようやく語ることが出来る」と語り始めた。「もう少しし、でも夫の手に届くことが出来なく流れて行ってしまった」と。聞いていて胸が詰まった。

人は、順風満帆でいるときには、殆ど「平和とは」とか「人生とは」などは考えないものです。でも、悲しみ、苦しみの中にあってだれもが問うのです。「なぜこんな事が自分の人生に起こるのか」と。でも答えは出ません。その時思い浮かんだのが冒頭の御言葉(聖書の言葉)でした。悲しみ、苦しみの中にあって人は何もできないのです。でも神様は言われるのです。「今は恵みの時、今は救いの日です。」と。悲しみ、苦しみの中で人は求めるのです。「神はいるのか?」と。それに応えてくれるのは、神様ご自身なのです。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日にあなたを助ける。」と。あなたが神様に叫び求めるとき、その時こそ「恵みの時」なのです。なぜなら神様があなたの叫びを聞き、答えてくださるからです。

ですから、思いっきり叫ぶといひのです。十字架に架けられ死んだけれども、甦られたイエス様が言われるのです。「今がその時だ」と。

「今がその時」

神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。

コリント人への手紙二 6章2節(新改訳2017)

わたしと聖句

熊本ナザレン教会
中出牧夫



発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／神保 勝己 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2021年度基本聖句

コリントの信徒への手紙二 4章18節

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。